

六葉会 会報

2021 年
4 月号



関東学院六浦中学校・高等学校同窓会

<http://www.rokuyoukai.com>

表紙を飾る版画家 大庭明子さん

(23 回生)



表紙の作品紹介

「SWIMMER Z」 木版画

今も水泳大会はあるのでしょうか。50年前は水泳大会がありました。泳げる泳げないにかかわらず希望者が参加したようです。そのとき活躍した泳ぎのうまい下級生女子の姿にしばし見惚れました。それにしても女子の黒いスクール水着の伸縮性のなさ。野暮ったさが懐かしいです。今思うとあの当時（半世紀前）体育でプールの日は大抵かなり肌寒かった。今なら5月から泳げそうです。

大庭明子（おおば あきこ）

1956 逗子市生まれ。東京造形大学絵画科版画研究室にて馬場栲男氏に師事、卒業。神奈川県美術展、日本版画協会展などで受賞。イビザグラフィック展（'84）、ビトラ国際版画トリエンナーレ（'94）、他に出品。文化庁芸術家国内研修員（'85）を経、各地で個展開催。主な挿絵に山北宣久著『福音と笑いこれぞ福笑い』（教文館）、林あまり著『光を感じるとき』（教文館）、絵本に中川ひろたか・大友 剛著『ことばのくにのマジックショー』（アリス館）、荻田澄子著『にくまん どっち?』（アリス館）など。

<http://www.obaakiko.com>

C O N T E N T S

大庭さんプロフィール・略歴…… 表紙2	
新会長挨拶…………… 1	
校長先生挨拶…………… 2	
「Google for Education」を基本とした 先進的オンライン学習の成果…………… 4	
村松信雄先生追悼文…………… 6	
新役員紹介…………… 7	

クラブ活動紹介…………… 8	
卒業生親睦ゴルフ15回記念大会 …… 10	
写真で見る六浦中高今昔…………… 14	
追浜寮～国際寮を目指して～…………… 16	
お知らせ・69回生学年幹事紹介 …… 17	
校訓…………… 裏表紙	

奉仕せよの天命に生きる

六葉会会長 高橋 浩司 (30回生)

天から与えられた我が使命を天命

と言います。関東学院に入学し、校訓「人になれ 奉仕せよ」との言葉を与えて頂き、生涯の生き様を奉仕と定め、世界平和の礎になる事こそ天命と感得し今日に至ります。正に我が心の内に秘められた天命を覚醒してくれたのが、関東学院での日々でありました。

卒業後、少しでも恩返しをさせて頂きたいとの思いから同窓会活動に参加して参りましたが、2020年5月の総会を以って、島根前会長の後を引き継ぎ会長のご指名を頂くこととなりました。奉仕でご協力頂いております同志の役員の皆様と共に同窓会の交流と母校発展の一助となるべく粉骨砕身、努力して参りますので何卒ご指導、ご協力の程宜しく

お願い申し上げます。

さて昨年は、コロナ禍の影響で通常の対面式総会を開催する事が出来ず、文章承認という簡易形式の総会となりました。その後も学校に入校することを自粛しようと決め、三役によるリモート会議の開催とその結果を常任幹事の皆様にメール配信してご意見を頂くという形式で一年間六葉会の運営をして参りました。学年同窓会も殆んど開催されず、六浦



祭も中止となり事業という事業は、ほぼありませんでしたが、こういう時だからこそ役割をしっかりと担えるようにと様々な協議を重ねて来ましたので、新年度には何か新しい取り組みが出来ればと思っています。

まだまだコロナ禍は大変です。

お身体にはくれぐれもご留意下さい。早い時期に皆様とお会い出来ることを楽しみにしています。

最後にコロナウィルスの恐怖の中で、多くの同窓生が医療や福祉の最前線でご奉仕下さっており、ありがとうございます。感謝のメールを送らせて頂きますと共に皆様のご加護がありますようお願い申し上げます。

感謝・合掌

いま、あらためて思うこと・・・教育とは

関東学院六浦中学校・高等学校校長

黒畑 勝男



コロナ禍で経済活動では一部を除き、多くが疲弊する現実を悲しく思います。青春真只中の生徒たちも輝くはずの日々を謳歌できず、悔しい感情を止められません。学校閉鎖、分散登校等で学校もこれまでにない課題を抱え、多くのことを考えさせられました。その中の二つについてお話しさせていただきます。

本校は、文字通り「学びを止めない」学校の一つと思います。プレジデントファミリー（2020秋の号）の記事でもICT化先進校の事例に上げられました。2015年からICT利用の促進を図り、法人7校の中でも授業や活動、業務全体での浸透は群を抜いています。2018年度に中2〜高1、年次進行し2020年度は中1から生徒全員がChromebookを所持。この進捗と時がひとつのコロナ感染の拡大でしたので、学校休校措置でも本校はon-lineによる運営がスムーズでした。たしかにコロナへの対応力が優れています。2020年秋にはGoogle for Education, Japanから「Google for Education 事例校」と

しての認定を頂きましたが、いろいろな形態でも基本的に双方向型の授業を自然に実施しています。

そうした中での課題の一つは、ICTの浸透と学びの変化についてです。先進だからこそ深く考えることは、ICT化の目指すものは、「鉛筆がキーボードに」、「黒板が家庭で」ということではないということです。OECD諸国の教育でのICT浸透は「学びにおける個別化」という特徴をもちます。文科省が掲げる『GIGAスクール構想』（2019年12月）の目的も環境のデジタル化ではなく教育の改革です。文科省は「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する」という教育観の転換を唱えています。学習内容やテストの方法が変わるというレベルの話ではありません。その環境を利用し、個別に必要なこととして、何をどのように最適に学ばせるかということです。

本校に着任以来常々、教育の実践

に必要な観点として日本の人口縮小を申し上げてきました。生産年齢人口比率の減少は人口縮小の速度以上で加速します。人口縮小と国内グローバル化の進行が社会を変えるでしょう。また、AIとIoTが加速度的に浸透していく社会の中では、これまでのように組織に守られて生きるという環境も大きく変わるでしょう。働き方でも職住接近という概念が普遍的通念ではなくなるでしょう。そうした未来社会での個人の生き方を考え、それに備える教育が必要なのです。その力をつけるために、一斉授業ではない形での進化も可能とするICT環境での教育の増進が課題です。

文科省や経産省は社会の変化を見通して問題点を示し、日本の教育における欠陥を「主体性」の育成の不足と指摘するようになりました。今回の学習指導要領の改定は、学び方、内容と方法において過去にはない変容を求めるものです。未来社会には教員も含め過去に育った世代には想像できない変化が起きると考えるべきなのです。子どもたちが生きてゆく未来を見据えて、新しい学び方や

学びの活動を実践していくことが中等教育の使命だと強く思います。

二つ目は、社会の未来に向けてのこれまでにない変化とその速さに対応する教育を担う学校の実存的な役割についてです。社会の変化のベクトルは、コロナ禍に関係のないものもとのベクトルです。本校はコロナ禍にあっても本校なりの取り組みを、教育フレームの付け替えや学習の個別化、学びの自走化に向けた環境の整備、ICT環境を活かす社会連携での実践として進めてきています。今は停止している選択制グローバル研修の多彩化と日本語力と英語力の向上の教育が目立ちますが、実は主体性を育てるプログラム作りに腐心してきています。ホームページの記事を通して背後のコンセプトを感じていただければと思います。学校は、「学」びを「授」けるところから、個の学びと成長をファシリテートするところになるべきなのです。

直近の取り組みでは、京急本社さんとのコラボ、「横浜市金沢区の魅力」を伝えるインスタグラムアカウン

21年1月8日～3月31日で開設されましたが、online会議を中心とした一年半の準備活動が隠れていました。また、「みなとまちバーチャルEARTH Fes」(2021年2月17日～28日)に関東学院を代表して出展しましたが、本校全学年での特色ある学びをバーチャルで表しています。主体的な活動が社会連携事業の中で実ったものです。

2021年度、本校は新しい取り組みをさらに起こしますが、大きなものは学院全体のキャンパス再配置計画から譲り受けた追浜の寮のスタートです。インバウンド留学編入生を徐々に受け入れ、中高全体の学びの環境を国際化する予定です。新たな時代を見据え、「人になれ奉仕せよ」を「温故『創』新」の気構えで進めたいと思います。

(学校長2014年入職・就任、今年度は第二期4年目)



「Google for Education」を 基本とした先進的オンライン学習 の成果

関東学院六浦中学校・高等学校 教頭 難波 繁之



現代、「自ら

課題を見つけ、自ら解決策を策定し、自ら実行できる」人材の育成が学校教育の中では急務となった。そこで、GIGAスクール構想や未来の教室というコンセプトが学校現場でも現実のものとして導入していかねばならない。しかしながら、この2構想も教育界の保守的な考えから順調に進んでいitわけではない。一向に進まない「校内のネットワーク設備の設置」、「1人1台のデバイスの所有」、そして決定的だったのが「教育のICT化を牽引するはずの教員の育成」である。

ところが、このような停滞した事態を

一変させる出来事が起こった。

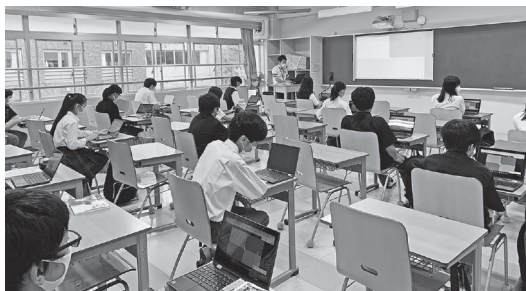
それは「新型コロナウイルス感染症」の拡大による長期間の学校休校措置であった。以前は、リアル（対面）授業で「チョークアンドトーク」、「教科書主体」の展開だけを考えていれば良かったのだが、長期間の休校で生徒たちに効率的に学ばせる方法を考えた時「オンラインライブ授業」が最善策となった。オンラインライブ授業では、今までの授業手法は通じない。オンラインライブで授業をおこなうと言うことは、テレビ会議と同様に映像（ビデオ）と音声を使って、家庭にいる生徒とのコミュニケーションを可能にし、授業での各種機能を駆使したツールを用いなければならない。また、テレビ会議のように映像や音声、資料の提示だけでは効果的な教育ができないのである。

そこで、関東学院六浦中学校・高等学校では「Google for Education」を使った教育システムを採用した。オンラインライブ授業では、映像や音声、資料提示の他に、課題の配信や回収、生徒へのアンケート、学習内容の質問事項の収集と回答などを実現するために実行に踏み切った。



Google for Education
事例校の認定証

話しは遡るが、2015年4月、全教員に対してICTを活用することを確認した。ICT化の取り組みとして、校舎全館どこからでもWi-Fiが使用可能になり、またプロジェクトでさまざまな情報を生徒たちに提示でき、なおかつ生徒全員にChromebookを持たせて授業で活用させる、ということを生徒に周知した。Wi-Fi環境がないとChromebookがまったく機能できなくなる。そこで、情報インフラ整備に大きな投資をし、全館でWi-Fiがつながる環境を構築した。そして、生徒用Chromebookは2018年度から導入を始めた。生徒が1人1台持つていれば、持ち帰って、教員から出されている宿題や課題を家庭学習の中でも行うこともでき、授業では教室でも使



Jamboard（電子黒板）を使用した授業風景

えるという形にしたいと考えた。そして、2020年度に全生徒がChromebookを持つという環境が完成した。

そして、Google MeetとGoogle Classroomの併用で授業やホームルームをおこなったり、生徒の様子を見たり、生徒への勉強のアドバイスをすることになった。

実際に実施されたオンラインライブ授業での分析は以下の通りである。

①メタ分析の結果、Face-to-face

instruction 対面指導のみよりも、Online Learning オンラインライブ学習（オンラインのみ、あるいはブレンドイッド）の方が、平均的に、より強い学習成果を出していた。

②学習結果を見ると、平均的に見て、オンライン学習者のほうが、対面指導を受けた者より、良いパフォーマンスをあげている。

③学習者の内省を促すツールが使われている方が、より学習成果の向上に効果的であった。学習者の理解度を振り返る内省の促進は、本メタ分析の結果から推奨したい。

このように、本校での取り組みは高い成果を上げた。今後は生徒たちが、コロナウイルス感染症の対策のためのオンラインライブ授業ではなく、生徒1人1人が高い志をもちつつ、技術革新と価値創造の源となる飛躍的な知の発見・創造など新たな社会を牽引する能力を育成する場である「未来の教室」を維持するためにも「全てのオンライン授業」への計画立案や投資のあり方を考える時期に來ている。

このような取り組みが評価されて、「2020年度 Google for Education 事例校」としてGoogle社から教育のICT化の先進校として認定されました。関東

学院六浦中学校・高等学校これからも、教育の様々な場面でICT化を進め、生徒がこの高度化した情報社会に対応できる能力を育成する覚悟です。

注1：GIGAスクール構想 Global and Innovation Gateway for All を略したもので「全ての人にグローバルで革新的な入口を」という意味。現在、文部科学省は学校のICT化を強く推奨して子ども達への1人1台端末と高速で大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、特別な支援を必要とする子どもを含め、多彩な子ども達の資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する計画を進めている。

注2：Google for Education Google社の無料の教育プログラム。その内容は難波教頭先生の説明の通りであるが、Google社のこの教育プログラムは部分的に使うのは簡単であるが十分な教育効果は得られないということで本校は沢山のファクターをすべてクリアして「2020年度 Google for Education 事例校」としてGoogle社より認定された。

注3：Google Meet Google社のビデオ会議サービス。リモート会議などに使われる。

注4：Google Classroom 主に教育現場で役立っているオンライン学習システムの1つ。

村松信雄先生を偲んで

萩原 一弥（24回生）



村松信雄先生は昨年6月に逝去されました。慎んでお悔やみ申し上げます。

私たち24回生だけは中学の時から学生運動の余波で1クラス少なく、高校でも5クラスで卒業しました。ですのでもわりと他の学年よりは生徒同士の関わりも厚い世代ではないかと思っています。そんな中で村松先生は私を含みわずか数人だけ3年間通して担任を受け持った頂きましたので、他の仲間よりは私が一番お世話になったはずなの

です。ことに中二から高二まで親元を離れ目黒の親戚宅から通っていた私にいつも声を掛けて下さったのに私の方が「大丈夫、大丈夫」と逃げ回って満足にお話を聞くこともなく通り過ぎてしまいました。

先日六葉会サイトに先生方へのインタビューが動画で掲載されていることを知り、村松先生の懐かしいお話が聞けました。当時逃げ回っていた私にはこんなにフランクにお話しされるイメージはなく、訃報を伝えた同級生からは「そおいうのをオマエ、ステューピッドって言うんだ」っていうのが口癖だったよと思ひ出させてもらいました（笑）。今になってもつと心を開いていたら先生の優しさや楽しさや戦中戦後のご苦勞などのお話しも聞かせて

頂けたんだろうにと悔やまれます。

また、先生はお酒をたしなまれないためか6、7年に一度の学年同窓会には一度もお出かけ下されなく、そういう席が苦手なのでの声も聞いて残念でした。ただ、六浦創設期の先生方に共通のクリスチャンらしい生徒を思い、学院を思い、日本の教育を思われながらも難しい言葉より背中で矜持を示された建学の精神を我々世代が息子たちにだけ伝えて来れたか一抹の不安もよぎります。

是非皆さんも六葉会サイトの先生方のインタビュー動画を見て懐かしむと共に、先生方の教育への熱心さなども改めて感じてもらえたら先生方も天国で喜ばれることと思います。



村松信雄先生2012年
インタビュー動画

● 役員紹介 ●

2020年度役員の紹介をいたします。

①役職・名前 ②卒業年度 ③在学時代の思い出を一言添えさせていただきます。



- ①会長・高橋 浩司
- ②30回生
- ③大学のマックで映研顧問の板倉先生におごってもらったポテトの美味しかった事。



- ①副会長・蒲谷 茂
- ②19回生
- ③まだ木造校舎が残っていました。体操礼拝がある日は教室に隠れて逃げていました。



- ①副会長・萩原 孝
- ②26回生
- ③兄、妹と兄妹3人学ばせていただきました。関東学院つながりの皆様に生かされていると感じています。



- ①幹事長・千葉 敏雄
- ②30回生
- ③昼休み食堂に駆込み一杯100円のかけそばを喜んで作ってくれた都築食堂のおじさんに感謝！



- ①副幹事長・高石 智一
- ②43回生
- ③先生や職員の皆様、そして先輩方に変なお世話になりました。とにかく学校が毎日楽しかったです。



- ①副幹事長・野澤 一良
- ②20回生
- ③恩師や先輩方に守られて夢の中にいるような心地良い六年間でした。



- ①会計・近田 裕信
- ②28回生
- ③日光キャンプへ参加し素晴らしい自然と人に出会えた事。



- ①会計・芹田 祐一
- ②44回生
- ③母校で教員として携わらせて頂いております。『関東六浦』が大きく変わろうとしています。卒業生の先輩方、後輩、そして恩師の皆様、是非、遊びに来てください。

クラブ活動 紹介

昨年3月頃からの学校は新型コロナウイルス感染症で緊急事態宣言が発出され、クラブ活動も大きな影響を受けることとなりました。地域や全国規模の大会、イベントはことごとく中止となり、中高の生徒たちにとって大切な思い出となるはずだった体験を奪われてしまったのです。長い期間登校がなくクラブ活動ができない中、寂しい思いだったことが想像できます。そんな中、リモートなども使い少しずつできることを模索していたようです。今回はそのようなクラブ活動を応援する意味も含め2つのクラブ活動取材して

ラグビー部

みました。感染防止を考慮して学校に無理を言ってお願ひしご対応いただきました。頼もしい後輩たちの様子を是非ご覧ください。はじめに男女ラグビー部を紹介します。

度現在では中高男女合わせて約120人の部員が在籍しています。ここ数年、高校男子は強豪校が多い神奈川県の中で常にベスト4、高校女子は創部わずか5年でサニックスワールドユース交流大会にて世界3位、全国大会でも2年連続準優勝とめざましい功績を挙げてい

部員数（2020年度）

中学生（男子：30人・女子：8人） 高校生（男子：48人・女子34人）

近年の成績

高校男子：関東高等学校ラグビーフットボール大会

5年連続出場中（2015年～）

全国大会予選神奈川県予選会

常にベスト4（2015年～）

高校女子：全国U18女子セブンス大会

2年連続準優勝（2019年～）

サニックスワールドユース交流大会 3位（2019年）

中学男子：関東中学校ラグビーフットボール大会

9回出場（うち2回ブロック優勝）

東日本中学校ラグビーフットボール大会

5回出場（2014年ベスト4）

神奈川県秋季中学校大会 優勝1回（2014年）

2005年度に愛好会としてわずか5人でスタート

総勢120人の規模になりました



2015年創設の女子ラグビー部
2016年会報でも紹介されています



ます。高校男子は強豪校が多い
神奈川県の中でまだ成し遂げて
いない花園出場を、女子は初の
全国制覇を目指し日々活動に励
んでおります。強みは、中学・
高校・大学の一貫したラグビー
指導ができることです。また、
高い水準でラグビーを行える環
境が整えられています。
2016年度からはじまったニ
ュージランド研修でも現地校
との交流、文化体験など貴重な
体験ができます。ニュージーラ
ンド研修では異文化交流を体験
し、ラグビーをツールにして感
受性が柔軟なうちに視野を世界
規模に広げ、卒業後未来社会へ
生きる人間力を学ばせています。
卒業生の中には、大学ラグビー
界のレギュラー（早稲田大学・
松下 怜央 2018年度卒）と
して活躍している選手もあり、
ジャパンラグビートップリーグ
の選手として活躍している選手
も出てきました。我々が指導す
る上で大切にしていることは、
彼らが成し得たことを、仲間と
共に喜びと達成感を積み重ねて
いけるように導くことです。そ

して生涯続く仲間との関係を、
ラグビーを通して築いていくこ
とを願っています。

（ラグビー部 総監督 林 広大）

次に歴史も長いバドミントン
部を紹介します。

バドミントン部

関東学院六浦中
高バドミントン部
は、市大会・県大
会への出場を目指
し日々活動に励ん
でおります。
2020年度現在
は中高男女合わせ
て18人の部員が在
籍しています。少
人数ではありますが、
上級生・下級
生が共に技術向上
に努めています。
普段は、練習試合
や公式試合から自
身の改善点を考
え、基礎練習をし

ています。その他に、ノックを
使った練習やシングルス・ダブ
ルスの実戦向き練習を行ってい
ます。公式試合で自分の実力を
発揮できるように、一日一日を
大切に練習に取り組んでいます。
（顧問 原 達哉）

部員数（2020年度）

中学生（男子：1人、女子：11人） 高校生（女子：6人）

近年の成績

中学校女子：金沢区夏季バドミントン大会（2018年）
女子シングルス 第3位
金沢区秋季バドミントン大会（2018年）
女子団体戦 第3位
金沢区冬季バドミントン大会（2018年）
女子個人戦 第5位（市大会出場）
神奈川県私立中学校バドミントン大会（2019年）
女子団体戦 準優勝
中学校男子：金沢区秋季バドミントン大会（2020年）
男子個人戦 第3位
高校女子：高等学校総合体育大会（2014年）
女子ダブルス 横浜南地区 第6位（県大会出場）
横浜地区高体連冬季バドミントン大会（2019年）
女子個人ダブルス ロブロック 第3位

練習風景



神奈川県私立中学校体育連盟からの
賞状と中学女子部員の笑顔



今回の掲載に際し学校のたく
さんの皆様にご協力をいただき
作成することができました。心
より感謝申し上げます。今後の
各クラブ活動のご活躍を楽しみ
にいたしております。

関東学院六浦中学校・高等学校卒業生 親睦ゴルフ15回記念大会



毎年恒例となった卒業生親睦ゴルフ大会が今年も新型コロナウイルス感染症の中、開催も危ぶまれ新幹事の取り組みによって感染予防に對しできる限りの対策を講じ開催することができました。蜜を避けるため集合写真やパーティ、表彰式を行わず、それでも参加いただく方々には楽しんでいただけるよう細かな気遣いをして20歳代から80歳代の卒業生56名が参加されました。

新幹事代表の石田さん（23回生）をはじめ、これまで続けていただいた7回生の幹事代表の武田正雄さんと、最年長でご参加の常盤達雄さんにインタビューいたしました。その他スタート順に各組から代表してひとことずついただきました。

第15回 関東学院六浦中学校・高等学校卒業生親睦ゴルフ大会を終えて

秋の爽やかな風が舞う11月18日、毎年恒例の卒業生親睦ゴルフ大会が56名の参加を頂き開催されました。この大会も本年で15回を重ね、今までに230人を超える方々が参加をさせて頂きました。これも第1回大会から幹事をして頂きました7回生の幹事の方々のお陰と大変感謝しております。特に毎回開催ゴルフ場を提供して頂きましたキングフィールズGC、磯子カンツリーの会長である7回生の鈴木先輩には安価な料金でプレーをさせて頂き心より感謝申し上げます。今回の15回大会より幹事体制が新しい体制に変わり、私が代表幹事になり、新幹事（7名）の皆様との打合せでは出来るだけ多くの卒業生に集まって楽しく一日ゴルフが出来るにはどうしたら良いのかを検討していましたが、年初からの新型コロナウイルスの感染防止という状況下で大会を開催するか、中止にするか幹事会でも色々な意見が出る中、運営方法を例年の方法から変更すれば大会が開催されるのではないかとの結論で実施させて頂きました。

新幹事体制という事で先ずは卒業生への参加推進をするには名簿の整備が重要という事で引き継ぎました名簿から今まで参加頂いた方（230人）全員に往復はがきで大会案内を郵送させて頂きました。残念ながら約20名の方は宛名不在という事でしたが、170名の方々からは出欠席のご返答を頂きました。返信ハガキには今回は欠席ですが、次回は是非参加したいとお返事をいた方がも有り我々幹事としても大会開催通知をなるべく早く皆様に送るようにしていきたいと反省した所です。そういった経緯のもと当日を迎え、受付では開催主旨をご理解頂いた六葉会からは校章入りタオルを寄付頂き、参加者全員にお配りすることが出来ました。簡単な朝礼後、8時にはOUT、IN同時に1組目がスタートし女性11名を含む56名の方々による卒業生コンペになりました。

無事にけが人も無くプレーを終了し、帰りには当日ご寄付を頂いた賞品をくじ引き抽選を行い、数人の方々には賞品をお渡ししてお帰り頂きました。我々幹事は当日、コンペ結果を成績表で確認し、後日参加者の皆様に結果報告と入賞者には賞品を送らせて頂きました。今回はコロナ禍という事で表彰式も懇親会も開催することの無い親睦ゴルフコンペでしたが次回以降については、今回ご参加頂いた皆様からのアンケート結果を参考に楽しく一日が過ごせるコンペを開催出来るようにしていきたいと思っておりますので、ゴルフをおやりになる卒業生をご存じの方は是非お誘い頂き、沢山の皆様方が参加して頂ける親睦ゴルフコンペにしていきたいと思っておりますので、宜しく願い致します。

尚、今年の六浦卒業生親睦ゴルフ大会は令和3年11月17日（水）キングフィールズゴルフクラブにて開催予定でありますので宜しくお願い致します。

関東学院六浦中学校・高等学校卒業生親睦ゴルフ大会
代表幹事 石田 創（23回生）



武田 正雄 さん (7回生)

関東学院六浦中・高の第1回ゴルフ大会から早いもので去年15回を数えました。当初は三春台・六浦合同コンペから始まりましたが、是非六浦だけで行いたいとの要望が多数上がり平成18年から始まりました。経緯から7期生が中心で行ってききましたが当初はこの様に盛大になるとは思いませんでした。その後後輩の23回生の石田さん今坂さん26回生の萩原さん37回生の斉田さん39回生の長谷川さん方、今回は更にご協力いただく方が増え熱心に協力頂きました。前幹事として感謝しています。これからも永遠に続く事を確信しています。最後に磯子カンツリーの鈴木会長に多大のご支援を頂いた事に感謝します。

常盤 達雄 さん (2回生)

最年長でのご参加、常盤達雄さん(2回生)にも思い出をお話しいただきました。

関東学院大学卒業の父は坂田佑院長とご縁もあり、昭和27年に六浦中学校を受験することになった私は父と坂田院長に面会を求め「受験番号は何番かね?」ときかれ、院長は手帳に書き留められていました。その後出来がいいとはいえない私が入学できたことは事実であります。ゴルフをしているとむかし一緒に何度も回った川原先生を思い出します。卒業生ゴルフ大会に参加して毎回とても楽しい思いです。次回もぜひ参加できるような毎日のように夜の練習に行っています。楽しみにしています。



菊地 則夫 さん (16回生)

スコアはともかく同窓生ゴルフはのんびりでいいものです、それに後輩が混じると色々面倒みてくれます(笑)

宮脇 茂 さん (26回生)

ゴルフは楽しいですが、同級生とプレイするゴルフは格別です。楽しすぎてスコアボロボロです。今度は卒業生ボーリング大会も企画してくれないかなあ。幹事の皆様ありがとうございます。



牧島 敬行 さん (22回生)

いつも一緒にゴルフを楽しんでいる同窓生4人で参加しました。このコースは広くてボールがなくならないのがグーです。



石塚 勝久 さん (31回生)

天気も良くスコアも良く?同窓生ともお会いできてとても楽しい1日でした。集合写真やパーティはコロナウイルス感染防止のためできませんでしたが、早く以前のように表彰式もできるようになるよう祈っています。準備していただいた皆さんには感謝いたします。



萩原 めぐみ さん (26回生)

同級生とのラウンドはとっても楽しいです。もちろん最近はなかなかお会いできない先輩や後輩の方々とお会いできるのも大きな楽しみです。今回はパーティや表彰式がなくて寂しいですが、次回も楽しみにしています。



奥山 裕一 さん (31回生)

コロナ禍、六浦OBゴルフを開催していただき感謝いたします。ありがとうございます。長くこの大会が続くことを願っています。



西岡 義榮 さん (14回生)

14回生の同期とは73歳でゴルフも辞めて家から出られないなどという友人が多くなりました。以前のように誘ったら来てくれる人も少なく寂しいかぎりです。ただ六浦の同窓会が主催なら楽しく過ごせます。この一言です。OUT3番ホールでホールインワンを出したことがありました。まだチャンスは必ずあると信じて頑張ります。幹事のみなさんご苦労様です。ありがとうございます。

井上 由実 さん (26回生)

15回記念おめでとうございます。いつも素晴らしいキングフィールズで同級生と楽しく過ごさせていただき、幹事の皆様方には感謝しております。まだまだ参加させていただきますので20回、30回と続けてほしいと思っています。



瀧澤 一博 さん (27回生)

なかなか厳しい昨今の状況で素晴らしい運営をされた幹事さんに感謝致します。一緒にさせて頂いた大竹さん榎田さんありがとうございました。



野本 光一 さん (20回生)

前回池ボチャだったショートホールを攻略するために、今回は普段使わない6番アイアンを持って行き、ティーを1センチアップするなどしたことでニアピン賞を2つもいただくことができました!2年がかりのニアピン賞です。天気も良く気を使わない同級生と回り楽しい1日でした。



伊神 宏明 さん (37回生)

いつ行っても最高のコースです!参加者も大先輩から若手まで、ゴルフ好きから運動不足解消まで、いろいろな方が参加していてとても楽しめました!



三橋 恵美 さん (30回生)

兄に誘ってもらい初めて参加しました。懐かしい方々にお会いし、同級生と回って楽しい時間を過ごすことができました。

斉田 美穂 さん (37回生)

先輩後輩の女子4人の組み合わせ！コロナ対策で参加者のみなさんとはすれ違うだけの変則コンペでしたが、心はひとつに楽しい1日でした。



近藤 克彦 さん (28回生)

コロナ禍での大会に参加させていただき先輩と楽しくラウンドさせていただきました。この日はまぐれのバーディーパットが3回も入ったので優勝することができました。この大変な時に会を運営していただいている皆様に感謝いたします。いつもありがとうございます。

6番ホール途中の 撮影スポット



以前からお手伝いしていただき
ありがとうございます



名物ホール17番 ティグラウンドより (池は千葉県の形を模しています)



関東学院六浦中学校・高等学校卒業生親睦ゴルフ大会 第16回大会案内

日 程：2021年11月17日（水曜日）

参加資格：六浦中学校・高等学校に在籍歴のある方・
教職員（現役・退職問わず）

会 場：キングフィールズゴルフクラブ（千葉県市原市）

※会費等詳細、新型コロナウイルス感染症の今後の経過により開催内容等は今後検討しご案内いたします。

お一人でもお気軽にご参加ください。

連絡先：石田 創（23回生）090-7803-7390

今坂伸二（23回生）080-1053-4713

近田裕信（28回生）090-8588-3874



早朝から準備をして皆さんのお越しを
お待ちしております

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で六葉会の活動も大きな影響を受けることになりました。例年は三役会や常任幹事会、六浦祭などの学校の行事にも参加し生徒や先生方との触れ合いも楽しみのひとつでしたが、それらのほとんどが皆無と言っていいほどの状態で、現在の母校の様子も懐かしく思えるほどです。活動が少ないこともあり会報では70年近い歴史の学校の移り変わりを観ていただこうと今回の企画を考え、古い写真を探し現在と比べながらご覧いただこうと思います。通っていたころの母校の様子を思い出していただけることでしょう。

礼拝堂前



1983

1983年礼拝堂前の中庭。この礼拝堂は1978年の卒業式から使われました。

礼拝堂のパイプオルガン。



2021

外壁の時計も外され手前の桜の木も大きく育ち春には満開の花を咲かせます。



旧入口



1975

1975年の入口。沖縄海洋博開幕の年。翌年にはロッキード事件が世の中を騒がせました。

2021

現在は礼拝堂の裏手に当たります。



1967

この年には母校の15周年式典が行われ新しい校歌も発表されました。六葉会、六穂会の発足もこの年（40周年記念誌より）。



1954

1954年撮影。手前が侍従川になる前の平潟湾。柳町もまだありません。陸上自衛隊ができた年だそうです。

今昔 六浦中高



1955 1955年ころの正門の写真。世の中は高度経済成長へ向かい、その反面イタイタイ病や水俣病が大きな問題となっていました。

正門



2021 2021年現在の正門。正面にあるのは大学体育館。

1号館



1983 1983年の中学校舎。東京ディズニーランドがオープンした年です。

現在一番新しい校舎。
おしゃれです。



2021 現在の校舎。3階で礼拝堂のある本館とつながっています。

次は時代とともに変わった様子を上空からの写真でご覧ください。



2021 現在の全景。写真上が追浜方面。グランドの人工芝がとてもきれいです。



1983 1983年撮影の全景。手前の大学の建物と右上には短大の建物。

追浜寮紹介

母校に高校生の寮 ～国際寮を目指して～

この春母校の高校生向けの寮がオープンしました。これまで大学生用の寮として使われていたことはご存じの方も多いことと思います。この寮がこの後に書かれているような希望に満ちた寮になることを聞き母校の変貌に驚き今後の楽しみがまたひとつ増えました。

2021年4月より、いよいよ本校の高校生向けに寮が開設されます。寮の場所は、かつて大学野球部・剣道部・柔道部の合宿所があった場所です。その場所に2011年に大学の学生寮「スチューデント・ハウス33番地」が建てられ、本年新たに大学生用の国際混住寮が柳町に竣工したため、既存の寮を譲り受ける形でスタートします。最初の数年は大学生とフロアーを分けて混住しますが、何れは全てを本校専有で管理・運営することになります。6畳の広さの個室が183室あり、冷暖房完備は勿論のこと、優れたセキュリティとICT環境完備の寮です。閉寮期間が無いことも特徴の一つで、年間を通して寮に滞在することができます。寮父母さんに住み込みでお世話をして頂くのに加えて、本校にアルバイト雇用されるRA（Resident Assistant）の大学生も一緒に生活をします。スタートアップのRAは、エストニアからの女子留学生に担当して頂く予定です。全国に点在する寮のある学校同様、規則正しい寮生活を通して、自立心や社会性を育むのは大切な目的ですが、本校の寮は帰国生やインパウンド留学生も生活する国際的な寮になります。日本で学びたいという積極的な想いを持つ留学生と高校時代から生活環境を共にして、日本語と英語でコミュニケーション力を養う環境になります。国籍や母国語、育ってきた生活環境の異なる高校生が、同じ釜の飯を食う……。ダイバーシティの環境下の生活は、これからの社会そのものであり、それを感受性が柔軟な高校時代に経験することは、社会へ巣立つ前の貴重な機会になることでしょう。本校の寮生活が小さなグローバル社会体験の場となって、10年後20年後に世界の大舞台で再会する卒業生が数多く輩出されることを願っております。

教頭（寮務部長）中田 努（34回生）



国際的な寮として開設

2021年度六葉会総会 中止のお知らせ

本来であれば多くの同窓生が集まる豊かな時間とする予定でしたが、今年度も現段階で感染者数の減少はみられるものの予断を許さない状況と判断し総会の開催を中止することといたしました。六葉会に関しご意見やご要望などございましたら是非六葉会へご連絡いただければ幸いです。皆様お元気でお過ごしください。尚ご連絡にしましては学校への直接のご連絡はお控えください。六葉会ホームページより送っていただけますようよろしくお願い申し上げます。

六葉会HP **六葉会－関東学院六浦中学校・高等学校 同窓会**
(rokuyoukai.com) で検索してください。

同期会延期のお知らせ

「第67回生の友人たちへ」

私たちが成人式を迎える2021年に、同窓生のみなさんと会えるのを楽しみに幹事10名で同窓会を企画し、皆さんへ招待のお声をかけさせていただきました。その頃すでに世の中はコロナ禍にあり、私たちも戸惑いの中にありましたが、2021年の成人式の頃には落ち着いていますようにと祈る思いでした。しかし、まさに第3波の渦中にあり、実行は不可と判断しました。とても残念ではありましたが、今はそれぞれの置かれた環境で頑張りましょう。再び開催できる日を楽しみにしております！元気な姿でみなさんとお会いできますように。

第67回生 幹事

1組 藤田佳乃子・山下稚加 2組 鎌田翔馬・縄田 陸
3組 加藤百恵・清水郁賀 4組 高山 透・田中壮真
5組 笠原楓生・高戸美紅

六葉会69回生学年幹事の紹介

1組	網谷 仁寿・安倍 楓葵
2組	石川奈緒子・神長 屈人
3組	穴戸 蘭夢・村田 一輝
4組	植木 仁咲・中島 涼香
5組	牧野 七海・渡邊 全

クラス会や同窓会の開催の際にご連絡ください。
六葉会ホームページからアクセスできます。

※最新の住所録をご用意します。
※通信費の補助金を準備しています。
※住所変更もホームページからできます。



人になれ 奉仕せよ

「人になれ 奉仕せよ」とは、1919年の中学関東学院第1回入学式において、初代学院長 坂田 祐が提唱した基督教に基づく本学院の教育理念を端的に言い表したものです。

私は式辞に基督教の精神を高調して建学の精神とし、これを具体的に表現するために『人になれ』と力説した。これは私が祈って、上から示された言葉であった。次に述べたことは、『奉仕せよ』であった。人のために、社会のために、国のために、人類のために尽くすことである、と力説した。爾来、基督教の精神をもって本学院建学の精神とし、これを具体的に表現するために『人になれ』『奉仕せよ』の2つの言葉を校訓として、機会あるごとに、これを強調して、今日に至ったのである。